

学校関係者評価報告書

学校法人 麻生塾
麻生情報ビジネス専門学校北九州校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況.....	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員出席者名簿	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況.....	- 4 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法.....	- 4 -
5. 学校関係者評価の評価方法	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告	- 5 -
1. 重点項目について	- 5 -
2. 基準項目について.....	- 6 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者等・地域住民などの学校関係者が、麻生情報ビジネス専門学校北九州校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏 名	所 属(役職)	
高等学校	徳永 由紀子	福岡県立小倉商業高等学校 校長	出席
地域住民	佐伯 京子	地域住民代表	欠席
卒 業 生	祐徳 辰弥	オフィスビジネス科令和元年度卒業生(2020年 3 月卒)	出席
保護者等	野田 武志	ゲームクリエイタ科 3 年生在校生の保護者	出席
業界関係者	赤星 直樹	ギグワークス クロスアイティ(株) 九州システム部 担当部長	出席
業界関係者	有田 秀之	バリエントソフト(株) 代表取締役	出席
業界関係者	三宅 康夫	(株)ラック コンサルティング統括部 アカウントコンサルティングサービス部 シニアコンサルタント	欠席
業界関係者	河上 和弘	(株)ジーン 人事部 部長	欠席
業界関係者	宮原 寿光	(株)RAID 代表取締役社長	出席
業界関係者	梅本 周作	(株)アジケ 代表取締役	出席
業界関係者	伊藤 洋平	(株)パソナ YBS 事業部 特定法人営業課長	出席
業界関係者	木ノ下 五郎	北九州総合病院 事務部 課長	出席

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時:2026年6月9日(火)16:00 ～ 17:20

場 所:麻生情報ビジネス専門学校北九州校 6 階 602 教室

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

2025年度の活動実績に対し学校関係者評価委員と学校とで十分な意見交換を行い、学校の状況について共通理解を深めた。

自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果、課題及び改善策について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1)自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2)今後の解決方向が適切かどうか
- (3)学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4)その他、学校の運営に関する助言

5. 学校関係者評価の評価方法

基準項目の小項目ごとに、自己点検・評価と同じく下記の評価基準によって評価し、基準ごとに自己評価結果が適正であるかどうかを評価した。

自己評価結果に対する学校関係者評価の結果は基準項目ごとに表記している。

また、意見についてもとりまとめて記載している。

評価基準

- 3:基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている
- 2:概ね基準を満たしている
- 1:基準を満たしておらず改善が必要

Ⅱ. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【重点項目】

2026 年度に向けた単位制移行への取り組み

【取組み状況及び総括(成果と課題)】

2026 年度の単位制移行に向け、制度設計および準備を進めてきた結果、3 月末時点でカリキュラム編成を完了した。単位制へ移行しているグループ校の運用事例や課題対応を参考にしながら、本校の教育方針や学生の実態に即した制度設計を行った。カリキュラム編成にあたり、制度動向を踏まえた検討を進める中で、教育内容や到達目標との整合性を図りながら、カリキュラムおよびカリキュラムマップの作成を行った。授業時間数についても全体的な調整を行い、教育内容に応じた適切な編成を実施した。

また、時間割編成、評価方法、証明書発行等の運用体制についても整備を進め、関係部署と連携しながら円滑な運営ができる体制を整えている。

一方で、単位制運用の初年度であることから、作成したカリキュラムの妥当性や運用面については、引き続き検証が必要な状況である。今後は、実際の運用を通して課題を把握し、必要に応じてカリキュラムの見直しおよび改善を行っていく必要がある。

【委員からのご意見】

- ・履修登録のミスを防ぐガイダンスの仕組みづくりが必要。
- ・学生の孤立化等、メンタルヘルスの不調や欠席等、サインの見落としに気を付けることが重要だと思う。また、「コミュニティ維持」との観点から、クラス単位の活動減少による孤立化を防ぐための、演習科目におけるグループワーク、交流会などの実施が効果的ではないか。
- ・履修の多様化により、資格取得のための対策や、就職活動に対する支援の質の維持が重要である。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

学校関係者評価結果： 適正

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

法人の理念を踏まえ、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像についてはきちんと明文化され、学校グループのホームページへ掲載されたものを通じ、各教職員から学生・保護者等・企業へ周知を図っている。

また、学生便覧に掲載し全学生に配布しており、入学直後のオリエンテーションでも、法人の理念・学校教育理念・教育目的・育成人材像について周知している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

- ・年度末の結果を次年度の計画にフィードバックする PDCA サイクルの高度化が重要である。
- ・理念が具体的な数値目標に落ちているか。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
1-1-1	「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2
1-1-2	各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。	2	2

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果：適正

- 2-1:学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか
- 2-2:事業計画を作成し、執行しているか。
- 2-3:運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。
- 2-4:人事・給与に関する制度を確立しているか。
- 2-5:情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定め、規定通りに運営することができている。説明用の資料を作成し、2025 年 4 月 2 日(水)にキックオフミーティングにおいて教職員に対して周知・共有を行った。

2-2

運営方針に沿った事業計画書を策定している。作成した事業計画や学校組織図については、キックオフミーティングにて全教職員に周知を行っている。執行状況は、責任者を通じて定期開催されるリーダー会議や月 1 回の全体会議において全員で確認している。資料については、学校のサーバーに保管し、常に教職員が確認することが可能である。

2-3

法人において明文化された運営組織および意思決定機関の仕組みのもとで運営されている。理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会が適宜開催され、組織運営上の重要課題について合議がなされている。

また、校長代行が参加する部門長会議等、各階層別・目的別の会議体が設計されており、これらに参画し、法人方針の共有と学校運営への反映を行っている。会議は計画的に開催され、有効に機能している。

学校運営については学校組織図に基づき各種会議の整備・運営を行っている。管理職会議・リーダー会議・学科会議・教務会議など、各種会議体により定期的な情報共有を行い、学校・学科の方針等を認知し対応できる体制を整えている。また、月に 1 回、全教職員対象の全体会議を実施し、情報共有と状況確認を行っている。会議や朝礼は情報共有ツールである Microsoft Teams(製品名)を利用することで参加しやすい環境を整えるとともに、録画を行うことによって、後日再確認が可能な体制としている。校務分掌については担当者の複数人化を推進することで相互チェックが可能な体制となっており、また、教職員の業務の幅を広げ、属人化の解消を目指している。

また、学校業務を支援するための事務組織が設置され、姉妹校と連携しながら円滑に機能している。

事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るために、上長は職員に期待する分野の研修等への参加を提案している。その提案を達成するため、各自、研修参加計画や能力開発プロセスを立て、目標設定シートに記し進捗状況を上長へ報告している。

2-4

法人で整備された雇用区分ごとの就業規則および各種人事諸規程、労使協定に基づき運営している。これらは法令を遵守して整備されている。また、法人の運営方針や労働関連法令の改正に応じて規程の見直し・改定が行われており、その内容を教職員へ周知し、適切な運用に努めている。

法人で定められた給与規程(または一部雇用形態については就業規則)に基づき、法令を遵守した給与制度のもとで運用している。これらの規程は法人内共有フォルダ等を通じて教職員に公開されており、本校においても透明性の確保に努めている。

法人で整備された昇給・昇格制度を含む人事制度に基づき運営している。制度内容は教職員に公開されている。また、法人の基本方針を踏まえつつ、社会情勢や物価動向等を勘案し制度の見直しが適宜行われており、その運用において公平性・妥当性の確保に努めている。

法人で定められた採用規程に基づき、適切な募集・採用を行っている。採用にあたっては、当該部署の責任者が採用稟議を起案し、求める人物像を明確にしたうえで選考を実施している。また、法人本部および関係部門と連携した採用体制のもと、面接から内定判断まで規程に則って運用している。さらに、選考状況や内定辞退の状況等を確認し、採用プロセスの妥当性について検証を行っている。

2-5

学生の学籍や成績等の必要な情報については、麻生塾システムにて管理されており、教職員すべてが情報の情報にアクセスできるように共有化を行っている。基本的には対面による授業を行っているが、内容によってはオンラインによる授業やハイブリット型授業(対面授業／オンライン授業を組み合わせた授業)による授業の方が効果的なものもあり、Microsoft Teams などの情報共有ツールを用いることで、教育の質の向上を図ることができている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

- ・運営面について、意思決定ラインは明確化されていると感じる。単位制度導入への移行期であり、部門間の積極的な連携が大切。
- ・人事面について、情報系職種の市場価値が高騰しており、教員の実績や貢献を適切に評価し、教職員のモチベーション向上に繋がる制度の構築が重要。
- ・業務面について、効率化、システム管理がなされ教育 DX が整備・機能していると思われる。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
2-1-1	学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。	2	2
2-2-1	運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。	2	2
2-2-2	事業計画は適正に執行されているか。	2	2
2-3-1	法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-2	学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。	2	2
2-3-3	運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。	2	2
2-3-4	学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。	2	2
2-3-5	事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。	2	2
2-4-1	人事に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-2	給与に関する制度を整備しているか。	2	2
2-4-3	昇給・昇格制度を整備しているか。	2	2
2-4-4	教職員の募集・採用は適切に行われているか。	2	2
2-5-1	情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか。	2	2

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果：適正

3-1:教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

3-2:教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

3-3:教育の評価を適切に行っているか。

3-4:成績評価と単位認定を適切に行っているか。

3-5:教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

3-1

教育理念および教育目標(育成人材像)に基づき、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを策定し、学生便覧に掲載して教職員および学生に周知している。また、各学科のカリキュラム・ポリシーや授業内容を記載したシラバスをホームページで公開しており、詳細をインターネット上で誰でも確認可能である。

年2回、連携企業、校長代行、教職員が参加する教育課程編成委員会を開催し、カリキュラムの検討を行っている。この委員会を通じて、教育課程の定期的な見直しと向上を図っている。

3-2

学校教育法で定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成している。教育課程編成委員会などを通じて企業等から意見を収集し、教育目標や業界ニーズに基づいた授業を実施するため、カリキュラムの一部を見直し、授業内容の充実に努めている。

授業シラバスは、授業開始時に科目担当教員から学生に配付しているほか、学校のホームページでも公開しており、インターネット上で確認可能である。授業全体の計画を示すシラバスに基づき、各回の授業内容や到達目標を具体化した「コマシラバス(授業回ごとの詳細計画)」を作成し、体系的な授業運営を行っている。授業報告の記載内容についても、以前よりも充実が見られる一方で、教育効果や理解度の評価・検証には不十分な点も確認されている。

企業等と連携した実習では、実施要綱に基づき学生に対し事前・事後の指導を行っている。また、覚書の取り交わしや実習評価表を用いた評価を企業担当者に依頼している。評価表によって抽出された課題については振り返りを行い、次年度の実習および就職活動に反映させている。

キャリア教育については、就職実務や GCB 教育(グローバルシティズン・ベーシック、麻生塾独自のキャリア教育プログラム)などの授業を通じて、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の習得を図っている。また、システム系の学科については、本校に外部企業を招き業界理解イベントを開催した。学生が自身のキャリアを具体的に描くきっかけとなり、業界への関心を高めることができた。

3-3

授業評価については、前期・後期ごとに在校生に「授業アンケート」を実施し、シラバスに基づいた授業であるか否かの評価を実施している。また、学習管理システム「ManabieLMS」を活用し、授業ごとに学生が授業内容を振り返り、学習理解度や授業への要望を記録する「学レポ」機能を運用している。これにより、学生の理解度を把握するための指標として活用している。

授業科目の到達目標に対して授業方法が適切であるかについては、検定結果等により検討している。理解不足の分野や新規出題分野について授業内容や方法の再検討・改善を行った。授業アンケートの結果については、その結果に基づいて責任者から各教員にフィードバックを行っている。

3-4

学校教育法に定められた授業時間数を満たすカリキュラムを体系的に編成している。また、学内で定めた成績評価基準に基づき、適切に評価を行っている。成績評価、単位認定、進級および卒業判定の基準は規程として定め、学生便覧に記載し学生および教職員に周知している。さらに、各科目の評価基準についてはシラバスに明記し、学生に対して明確に示している。

成績入力には複数の教員によるダブルチェックを実施し、評価や入力の誤りがないよう徹底している。これらの規程に基づき、年度末には卒業判定会議および進級判定会議を開催し、卒業および進級の判定を行っている。

3-5

教員の組織配置については法令に則り、資格・要件を備えた教員を確保し、分野ごとに必要な教員体制を整備している。新任の教職員に対しては指導担当者(チューター)を配置し、新任研修を計画的に実施したうえでOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング、実際の職場で実務を通して学ぶ訓練)を行い、指導力の向上や組織への順応を図っている。

今年度は、非常勤講師が担当する科目の多い学科については、校務分掌にて窓口となる担当者を定めることで情報共有を行う体制を整え、受験した検定結果やポートフォリオ、授業進度などの学習成果について、適宜、情報共有を行っている。新任や新たに管理職となる教職員については、計画に基づき、必要な研修が実施されている。

外部機関の実施する研修の利用や学校法人麻生塾教育推進グループ(以下「教育推進グループ」という)が主催する研修の機会を積極的に活用し、教員の専門性や指導力等の維持、資質・能力向上を図り、その内容について報告している。上長は報告書の内容をもって、今後の改善計画や担当業務を勘案する。専門分野の情報の更新や新たな知識の習得、学生に対する指導力の向上を図るための研修には、積極的に参加している。

【課題及びその改善方策】

3-2

課題は特にないが、今後も時代のニーズに即した、より実践的・専門的な教育課程を編成できるように柔軟に対応していく。

3-3

講師への期末授業アンケート結果に対するフィードバックは行われているが、改善のための具体的なアドバイスやサポートなどは不足しているのが現状である。また、非常勤講師へのフィードバックについては、検定試験に向けて模擬試験の得点状況や検定の合格状況、授業アンケートの結果や学生コメントは伝えているものの、回答結果をもとに授業へ反映できるタイミングとしては適切ではない。「ManabieLMS」の「学レポ」機能だけでなく、单元ごとに授業の理解度の確認を行うためのミニアンケートやミニテストを適宜実施することで、学生の理解度の把握を図っていく。

3-5

課題は特にないが、更なる教職員の質の向上を図るために、研修時間の確保に取り組んでいく。

【委員の方からのご意見】

- ・カリキュラムが業界のニーズに合っているか、学生の成長が客観的に証明されているかの検証が重要。
- ・実践的な職業教育の体系的な位置付け、キャリア教育の内容は整備されているか。
- ・ドロップアウトへの対策や教員の資質向上への対策は整っているか。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
3-1-1	教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-1-2	教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。	2	2
3-2-1	教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	2	2
3-2-2	業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。	2	2
3-2-3	専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。	2	2
3-2-4	授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。	2	2
3-2-5	授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。	2	2
3-2-6	シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。	2	2
3-2-7	授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。	2	2
3-2-8	専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。	2	2
3-2-9	キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。	2	2
3-3-1	授業評価体制を整備しているか。	2	2
3-3-2	学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。	2	2

3-3-3	授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。	2	2
3-3-4	授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。	2	2
3-3-5	授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。	2	2
3-4-1	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	2	2
3-4-2	学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。	2	2
3-4-3	各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。	2	2
3-5-1	法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。	2	2
3-5-2	教員の組織体制を整備しているか。	2	2
3-5-3	教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。	2	2
3-5-4	教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。	2	2
3-5-5	教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。	2	2

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適正

4-1:学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

4-2:卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

4-1

学科ごとに国家資格試験や各種検定、コンテストの入選目標数を年度当初に設定し、進捗状況や結果を共有している。その結果をもとに、各担当者・学科内にて振り返りを行い、次年度のカリキュラムや授業内容の改善に努めている。

就職年次の担任と就職担当者が定期的に就職部会を行い、学生の就職状況や求人情報について情報共有を行ったうえで、支援方法について検討を行っている。

退学率の軽減の取り組みとして、担任との個人ガイダンスを年に数回行うとともに、必要に応じて保護者等と情報を共有している。

4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握するため、採用先企業に協力を仰ぎ、卒業生の貢献度合いや大学生・他の専門学校生との比較における優劣、学校として改善すべき点、学校への要望などについてアンケートにて確認している。また、アンケート結果については、必要に応じて授業等で共有し活用している。

卒業生の状況については、就職担当職員が企業から聞き取りを行い、就職部会等にて教員に共有をおこなっている。また、卒業生から元担任への近況報告なども共有を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

- ・ポートフォリオやコンテスト等の外部評価で、学生自身が実力を可視化することができているか。
- ・卒業後の追跡に関して、3～5 年程度経過した卒業生の中・長期的な活躍や業界からの評価をヒアリングし、カリキュラムに反映することにより、業界実態に即したカリキュラムを構築していくことができるのではないか。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
4-1-1	就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。	2	2
4-1-2	退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。	2	2
4-1-3	資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。	2	2
4-1-4	資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	2	2
4-2-1	卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。	2	2

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果：適正

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学生の就職・進路支援は、担任教員による指導のほか、事務局もカウンセリングを行い、その指導記録を担任と共有している。採用試験前の面接指導、提出書類の確認など、個別の対応についても担任教員に加え、事務局も協力して行っている。また、人前で話すことや面接に不安を抱える学生を対象に、就学支援および進路支援の一環として少人数制の『会話力アップサークル』を実施している。今年度は参加者 6 名に対し、発声練習や自己分析、面接で想定されるテーマに基づく発表を行った。発表に際しては相手に伝わる話し方を意識させるとともに、聞き手としての態度や質問力の向上を図り、各回終了後には個別のアドバイスを行った。

学生からの相談には、担任教員が日常的に対応し、状況に応じてスクールカウンセラーや学生が所属する学科内の教員も対応している。相談内容によっては、保護者等の協力を仰ぎ、複数で対応する体制を整えている。

奨学金等の経済的支援については、公平に情報提供し適切に運用している。支援制度として、特待生制度、学費分納納入制度および高等教育の修学支援制度などがある。今年度は、高等教育の修学支援新制度において多子世帯への支援対象が拡充されたことを受け、3 月上旬に新入生に加え、これまで給付奨学金の対象となっていなかった在校生に対しても案内文書を送付し、制度の周知を図った。あわせて、在校生については事務局において全員の学生調査票を確認し、多子世帯に該当する学生を個別に抽出したうえで文書を送付し、個別説明を実施することで周知の徹底を図った。

年間計画に基づき健康診断を実施し、結果を記録・保存している。教務と連携し、未受診者および再検査対象者への受診勧奨を行う体制を確立している。また、法令に基づき結核健康診断実施報告を保健所へ提出している。さらに、結核感染予防の観点から、留学生に対しては入学前ガイダンス時(3 月)に胸部 X 線検査を実施し、早期発見に努める取り組みを定着させている。

学生の生活環境の支援として、寮の紹介などを行っている。

保護者等との連携は、学生状況(出席不良、成績不良、体調等)を、状況に応じて担任から保護者等への説明を行っており、コミュニケーションを図っている。

学科を超えた学生交流の促進および健康づくりを目的として、「運動サークル」を開設した。本サークルは、学科・学年を越えた交流の促進、継続的な運動習慣の形成による健康増進、学修や就職活動の合間におけるストレスの軽減、団体行動や協力プレーを通じたチームワークの育成、放課後の時間の有効活用を通じた学校生活の充実を目的としている。第 1 回は 6 月に実施し、以降は毎月多くの学生が参加していたが、インフルエンザの感染拡大を受け、10 月以降は実施を中止した。また、後期は学科を超えて専攻分野とは別の能力を身に付けることができる学びを提供する課外活動として、トラベル英会話や VTuber、デジタルイラストなどのプラス α 講座を実施した。

入学前教育として、学科の特性に応じた課題を課し、専門分野の事前学習を始める体制を整えている。また、学力不足を補うため、リメディアル教育(「学びラボ」)で個別に基礎学力の補填ができる支援を行っている。

【課題及びその改善方策】

特にないが、健康管理については、デジタル化に伴い、Web 問診票に対応できるよう取り組む。

【委員の方からのご意見】

・年々学生のコミュニケーション能力が低下していることもあり、会話力アップサークルの実施は良い取り組みだと思う。その反面、参加者が 6 名と少ないので、もっと取り組みを広げた方がよいのではないか。

（このご意見への回答：現在は教員がピックアップして参加を促している状況であるが、今後さらに参加者が増えていくような取り組みを行っていきたいと考えている。）

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
5-1-1	学生の就職・進路支援を適切に行っているか。	3	3
5-1-2	学生相談に関する体制を整備しているか。	2	2
5-1-3	学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。	3	3
5-1-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3	3
5-1-5	学生の生活環境への支援を行っているか。	2	2
5-1-6	保護者等との連携を適切に行っているか。	2	2
5-1-7	学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。	3	3
5-1-9	学生に対する修学支援体制を整備しているか。	2	2
5-1-10	入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。	3	3

※社会人学生とは、学生のうち、職に就いている者（給料、賃金、報酬、その他の経常的な収入を目的とする仕事に就いている者）をいう。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果：適正

6-1:教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

6-2:教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

6-1

教育施設・設備については、設置基準を遵守し、定期的に動作確認などを行い適切に管理している。

ソフトウェアライセンスは、数の管理が必要な物は資産管理ソフトウェアを導入して管理を継続している。また Microsoft 関係のライセンスは包括ライセンスを結ぶことによって、数量管理をせずに運用が可能となっている。教育機材と備品についても、備品管理台帳を整備し、数量不足や使用不備が発生しないように整備し、状況に応じて交換や追加で購入している。

6-2

学校における安全管理体制として、危機管理マニュアルの整備を行い、避難場所・避難経路については教室内に掲示している。

学内の防災対策に関しては、火災・地震発生時を想定した避難訓練を教職員が実施している。新型コロナウイルス感染症は落ち着いているが、引き続き必要に応じて入館時の検温、手指消毒、換気の徹底、教室内の消毒を行っている。4 月に、学生・教職員全員で避難訓練を実施した。

学外実習やインターンシップを実施している学科では、実施要綱、マニュアルを整備している。また、実習やインターンシップ参加前には、説明会や実習前研修を行っている。インターンシップ、実習終了後は報告書の提出を求めており、振り返りを行っている。

【課題及びその改善方策】

6-1

課題はないが、今後も、機材・備品管理台帳を継続的に更新する。

【委員の方からのご意見】

・インターンシップの内容・期間・評価はどう管理しているか。海外研修の実績はあるのか。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
6-1-1	教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。	2	2
6-1-2	教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。	2	2
6-1-3	図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。	2	2
6-2-1	学校における安全管理体制の整備を行っているか。	2	2
6-2-2	定期的に防災訓練を実施しているか。	2	2
6-2-3	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。	2	2

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果：適正

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

本校は、アドミッション・ポリシーを募集要項および公式ホームページに公表し、適正な募集活動を行っている。

入学選抜においては、「来校」または「オンライン」より選択し受験できるようにしており、遠隔地の学生や感染症拡大のリスクにも対応できるように実施体制を整えている。また、その運用に関するノウハウや情報を Microsoft Teams で共有することで、公正かつ適切に入学選抜を実施している。

校納金については、適切な授業料や入学金等の設定を行っている。教材費については、各学科のカリキュラムに合致した教材等を教務で協議し、妥当性、透明性を確認して決定している。

【課題及びその改善方策】

課題は特になし。今後も引き続き、適正な募集活動を維持するため、選抜方法や選抜基準等を毎年見直し、適正かつ公平な入学選抜の実現に努めていく。

【委員の方からのご意見】

- ・今年度は入学者数が増加しているようだが、増加に転じた要因としてはどのようなことが考えられるか。
(このご意見への回答:まだしっかりと分析できていないが、高校生の進路決定の早期化が始まっており、募集タイミングの変化に対応できたからではないかと感じている。)
- ・アドミッションポリシーは浸透していると感じるか。
- ・総合型においては、意欲をどう客観的にスコアリングしているか。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
7-1-1	入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。	2	2
7-1-2	募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。	2	2
7-1-3	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。	2	2
7-1-4	学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。	2	2
7-1-5	校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。	2	2

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適正

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。
ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

・情報公開により、きちんと社会的説明責任を果たしている。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
8-1-1	教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。	2	2
8-1-2	予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。	2	2
8-1-3	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。	2	2
8-1-4	財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。	2	2

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適正

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行っているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾法務人事グループ・教育推進グループ等、関係部署と密に連携し、学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準など遵守し学校運営を行っており、届出・申請・報告などの手続きは確実に実施できている。法令に従い、個人情報保護、ハラスメント防止、危機管理に関する学内諸規程を整備し、適切に運用している。ハラスメントについては、「ハラスメント通信」(ハラスメント委員会から定期的に発信される社内報)を通じて、各自で理解度の確認できるようにしている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

・特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
9-1-1	法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。	2	2
9-1-2	関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。	2	2
9-1-3	法令遵守違反等に対応する体制を整備しているか。また、法令遵守等に関する研修・教育を行っているか。	2	2

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果：適正

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

教職員全員で関連分野の自己点検・評価を行い、結果に基づき業務などの改革・改善を行うことを基本方針とし、本校の教育の質保証・向上に取り組んでいる。

地元企業や施設関係者、地域住民、高校教員、卒業生、保護者などで構成される学校関係者評価委員会以自己点検・評価の報告を行い、そこで指摘された意見をもとに改善に取り組んでいる。

改善案などの意見を取り入れた自己点検評価・報告書と学校関係者評価報告書をまとめ、本校のホームページで公開している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

・誠実な情報発信になっている。

小項目	評価項目	自己点検・評価	学校関係者評価
10-1-1	学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。	2	2
10-1-2	自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。	2	2
10-1-3	学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。	2	2
10-1-4	学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。	2	2
10-1-5	自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。	2	2

基準11 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果：適正

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

学校運営に必要と判断した場合、積極的に関連団体へ加盟しており、現在は、北九州市産業経済局企業誘致部誘致課と常に連携し、地域貢献活動における本校の役割について協議している。複数の学校や JICA(独立行政法人国際協力機構)から依頼を受け、体験授業の実施のほか、高校に出向いての出張授業を実施している。

行政と連携した「北九州高校生イラストコンテスト」を実施するなど、社会活動、地域貢献活動を行っている。

ボランティアイベントは青少年ボランティアステーション(北九州市)から定期的に紹介いただき、全学科、担任教員を通して学生へ案内している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

・専門性の高い出張授業を実施していただいており、今後も継続して実施をお願いしたいと考えている。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
11-1-1	学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。	3	3
11-1-2	学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。	2	2

基準12 国際交流

学校関係者評価結果：適正

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

海外語学留学プログラムの学内説明会を行い、別途個別相談の場も設けている。申込者に対しては、オリエンテーションや英語勉強会を実施しており、学生・保護者等向けの説明会では、渡航先情報や必要な準備、現地での心構えなどを情報共有している。学生とはチャット等の連絡ツールで常時連絡が取れるようにしており、質問や相談の受付、情報共有をおこなっている。外部留学エージェント経由で留学する学生については、エージェントと渡航情報を共有し、必要に応じて学生本人や保護者等からの相談に対応している。

今年度は本科生1名在籍。入学前後オリエンテーションやアルバイト先との情報確認、在留資格の更新手続きフォロー等を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

【委員の方からのご意見】

・特になし。

小項目	評価項目	自己点検・ 評価	学校関係者 評価
12-1-1	海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。	2	2
12-1-2	留学生の受け入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。	2	2
12-1-3	留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。	2	2

以上